

CSRの取組み 2023年度実績および2024年度計画

企業理念	行動宣言	項目	2023年度計画	2023年度実績	2024年度計画	
常 に 高 い 倫 理 観 を 持 つ	ル ー ル の 遵 守	法 令 や 社 内	・コンプライアンス活動計画（3月17日、コンプライアンス推進会議で承認）に掲げた諸施策の確実な実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>2月から3月にかけて、コンプライアンス等に係る「出前研修」を各職場を訪問する形にて実施した。（10か所で開催し、協力会社社員46人を含む計354人が参加した。）</li> <li>階層別研修は7階層計146人を対象に実施した。</li> <li>協力会社99社が参加した事業計画説明会の中で、コンプライアンスについて説明を行った。</li> <li>11月のコンプライアンス週間には幹部やキーマンを対象に外部講師のセミナーを実施。コミュニケーション・時間外労働の上限規制への対応・独占禁止法違反防止などの重要課題をテーマに取り上げた。</li> <li>独占禁止法違反防止および社内相談窓口に関するアンケートを実施し、その結果を社内に周知した。</li> </ul>	・コンプライアンス活動計画（3月12日、コンプライアンス推進会議で承認）に掲げた諸施策を確実に実施する。	
			・企業理念・行動宣言の定着のための教育の継続実施	・「企業理念・行動宣言」の定着を図るため、階層別研修等の場で再周知、解説を行った。	・企業理念・行動宣言の定着のための教育を継続実施する。	
			・内部監査での指摘事項を中心に、規程類の運用の明確化と徹底に取り組む。	・第6期中部電力グループ内部監査フォローアップ調査結果での指摘・改善要望事項を受け、情報管理に関する規程類の改正を行い、運用の明確化に取り組んだ。	・内部監査での指摘事項を中心に、法改正等に対応して規程類の運用の明確化と徹底に取り組む。	
	健全な事業活動		・「企業理念」および「行動宣言」のもと、健全な企業風土を醸成し、株主、お客さま、従業員、協力会社等のステークホルダーから信頼される企業となるため、会社の業務の適正を確保するための体制を整備し、運用する。 ・内部監査の実施により内部統制の充実をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運用</li> <li>「業務の適正を確保するための体制」に則り運用した。</li> <li>経営管理に関する体制は、取締役会を10回開催（うち書面開催2回）し、法令および定款所定の事項ならびに経営上重要な事項について審議し決議している。このほかの業務執行における重要事項については、経営執行会議において審議または報告した。</li> <li>○監査</li> <li>経営監査部によるテーマ別内部監査、中部電力グループ内部監査およびJ-SOX監査により運用状況の確認、各規程類に準拠した業務運営の実施を確認した。</li> </ul>	・「企業理念」および「行動宣言」のもと、健全な企業風土を醸成し、株主、お客さま、従業員、協力会社等のステークホルダーから信頼される企業となるため、会社の業務の適正を確保するための体制を整備し、運用する。 ・内部監査の実施により内部統制の充実をはかる。	
			・2023年度は、中期経営目標の初年度として、5年後に会社が目指す姿の実現に向け、経営目標である既存事業領域の深堀りとこれまで拡大に取り組んできた事業領域の定着化の達成、カーボンニュートラルへの貢献、事業基盤の強化に取り組んでいく。 ・CPS構造改革で示していた「外販の拡大」「外注費削減」「経費・固定費の最適化」については、2023年度事業計画に織り込み展開していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「2023年度中期経営目標」に基づき、「5年後に目指す姿と経営目標の達成」「カーボンニュートラルへの貢献」「事業基盤の強化」を重点事項に掲げ、複数の火力ユニットの定期点検工事のラップや碧南火力発電所をはじめとする補修停止工事、碧南火力発電所4号機アンモニア混焼実証試験用配管工事、浜岡原子力発電所の維持点検や廃止措置工事、六ヶ所再処理工場での設備設置工事や女川原子力発電所等での新規制基準対応工事、京葉地区の石油製油所等の大型SDM工事、中部地区での大型太陽光発電設備やガスタービンコジェネレーションシステムのEPCによる施工などに取組み売上高は653億円、営業利益は54億円と事業計画を上回る結果となった。</li> <li>CPS構造改革で示していた「外販拡大」「外注費削減」「経費・固定費の最適化」については、本部長・部長行動計画書のアクションプランに織り込み全社展開した。</li> </ul>	・2023年中期経営目標の達成に向け、経営目標である既存事業領域の深堀りとこれまで拡大に取り組んできた事業領域の定着化の達成、カーボンニュートラルへの貢献、事業基盤の強化に取り組んでいく。	
			事業内容や環境変化に対応した新規リスクの洗い出しと、継続的なリスクマネジメントの実施	・経営に重大な影響を与えるリスクおよび各部が業務執行上管理するリスクについては、経営計画策定のプロセスにおいて対策やリスクの状況を確認し、見直し・追加などを行い、2024年4月の経営執行会議にて審議のうえ社長承認を得ている。	事業内容や環境変化に対応した新規リスクの洗い出しと、継続的なリスクマネジメントの実施	
			新型コロナウイルス感染症への対応を整理し、今後の感染症やその他非常災害への対応力の向上を図る。	・新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視するとともに、感染状況を踏まえた情報提供を継続した。2023年5月8日、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類感染症」に引き下げられたため、社内体制および感染対策のための非常態勢を解除した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大地震を想定して従業員およびその同居家族の安否確認および安全確保を第一義とした訓練を実施し、非常災害への対応力の向上を図る。</li> <li>パンデミック対応についても、新型コロナウイルス感染症への対応を整理し、非常災害対策手引き等への反映に取り組む。</li> </ul>	
			・工事着手前契約等建設業法遵守のための諸施策に取り組む。	・建設業法遵守のため、資材担当者への教育を実施した。また、原価作成段階からの案件情報提供を行い着手前契約率の向上に取り組んだ。	・工事着手前契約等建設業法遵守のため諸施策に取り組む。	
	お客さま第一	お客さま目線で常に考え、お客さまに満足いただけるサービスを提供する	安全と品質に万全を期す	・安全活動計画に基づき、災害ゼロに向けた一層の取組みを推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションの充実と5S責任者を中心に安全活動を行い、良好な人間関係を構築し安全を確保できる環境作りを実施した。</li> <li>「シンキングタイム（瞑想時間）」と「KKマッピング」手法の活用を昨年度に引き続き行い、過去の同種災害を繰り返し発生している状況であるため、危険の感受性をさらに向上させる意識付けを実施した。</li> <li>各部署長および運行管理者に、目に見える危険や隠れている危険を積極的に見つけ出す意識が持てる呼称運転（コメンタリー運転）を行うよう指導を実施し、交通事故防止を図っていたが3月に1件発生した。（年度実績交通災害：1件）</li> <li>安全活動計画に基づく各種取り組み等、遠隔地や小規模現場にて滞在型現場パトロールを行い災害ゼロに向けた取組みの強化を図ったが労働災害は高止まりの傾向であった。（年度実績労働災害：16件）</li> </ul>	・年度事業計画に基づき、災害ゼロに向けた一層の取組みを推進
				・品質保証活動計画に基づき、品質不適合ゼロに向けた一層の取組みを推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品・プロセス検証（購買・工事施工）、溶接自主検査、品質パトロール（QC・3H活動実施）、品質教育等を実施し、品質不適合発生の未然防止および品質の維持・向上に努めた。</li> <li>品質保証監査（内部監査）を実施し、QMS要求事項を満たし、業務が効果的に実施されていることを確認した。なお、観察事項1件を検出したが、この対応を実施し改善した。</li> <li>ISO9001第8回更新審査を受審し、不適合および観察事項の検出はなく、規格要求事項に適合しているとの判定を受けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度事業計画に基づき、品質不適合ゼロに向けた一層の取組みを推進</li> <li>品質パトロールで確認した良好事例の周知と水平展開</li> </ul>
・改善活動計画に基づき、改善文化醸成のための啓発活動、TPSかいぜん検討会への参画、改善活動を活性化させるための環境整備を行い、改善活動を推進する。				<ul style="list-style-type: none"> <li>TPS（トヨタ生産方式）の考え方を社内に浸透させる啓発活動を実施し、中部電力かいぜん検討会において16部署が報告した。</li> <li>改善事例発表会（5部署）を実施し、水平展開に活かすとともに、改善のヒントや社員の工夫する力、改善意識の向上を図った。</li> <li>改善推進会議にて良好事例の全社展開による業務効率化の推進として、各部署の良好事例（代表）を紹介し、他の部署への情報共有を図った。</li> <li>2023年度の改善提案数は、優秀賞：3件、優良賞：2件、佳作：6件、努力賞：23件、改善賞：1002件、アイデア提案：21件の計1057件あり、改善意識の向上および良好事例の水平展開に努めた。</li> </ul>	・改善活動計画に基づき、改善文化の醸成のための啓発活動、TPSかいぜん検討会への参画、改善活動を活性化させるための環境整備を行い、改善活動を推進する。	
・引続き顧客満足度調査を実施				・顧客満足度管理指針に基づき、営業部で35件、東京営業部で13件、実施。	・引続き顧客満足度調査を実施	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>「企業ブランドイメージ向上」「最新コンテンツへの迅速な対応」を図り、若年層に向けた企業ブランドイメージの向上ならびに外販拡大に向けた効果的な広報活動を推進する。</li> <li>また、有事を想定的確かつ迅速な報告（危機管理）を実施し企業ブランドイメージ低下を防止する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「企業ブランドイメージ向上」「最新コンテンツへの迅速な対応」名駅ビジョン広告、東海テレビ番組へ映像広告を掲出するとともに電気新聞等の取材対応（7件）を適切に実施した。さらに千葉駅周辺にてInstagram、X広告を掲出し将来を見据えた若者への企業ブランドの向上を図った。</li> <li>有事を想定的確かつ迅速な報告（危機管理）4件の危機事象について中部電力側に報告し、その内1件については社外ホームページに「お知らせ」として情報公開した。社外からの問い合わせはなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社の仕事や文化などの魅力について各ステークホルダーに刺さるような形で情報発信に取り組み、企業ブランドイメージの向上を図る。</li> <li>近年のSNSの普及により不適切な対応をした企業は社会の多数の厳しい目に晒されるリスクが増していることから、社会的信用の低下を防止するため、必要に応じて適切かつ迅速な社外公表への対応を図る。</li> </ul>	

企業理念	行動宣言	項目	2023年度計画	2023年度実績	2024年度計画
社会貢献	社会を通じ現に社会に努める発展、自己実現に努める	環境への取り組み	<p>《カーボンニュートラルへの貢献》</p> <p>▶自社のカーボンニュートラルの取り組み</p> <p>○多気バイオパワー（TB1、TB2）と自社太陽光発電所の再エネ発電電力量を5年後に7,700kWh/年以上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自社木質バイオマス発電は、多気バイオパワーおよび多気第二バイオパワーの安定運転を継続。</li> <li>・各太陽光発電事業（11基）は、これまでの取組みを継続。</li> </ul> <p>○社有車省エネ自動車化率：30年度に100%（11%以上/年）</p> <p>○電気使用量削減による21年度対比CO2削減：30年度128t（14t/年）⇒全社の21年度電気使用量の10%程度削減に相当</p> <p>▶再エネ開発実現に向けた目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度以降新たに着手する再エネ電源開発工事等により5年間で590kW以上の貢献を目指す。</li> <li>＜5年間の取り組み目標＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設：478.3kW（太陽光1.6kW、木質バイオ39.1kW、蓄電池0.6kW、水素・アンモニア437kW）</li> <li>・メンテナンス：84.3kW</li> <li>・木質バイオマス発電のO&amp;M受託：27.5kW</li> <li>・出資・投資：1kW</li> </ul> </li> </ul> <p>▶インバータ活用技術による省エネへの貢献</p> <p>▶燃料転換・コージェネ工事の実施</p> <p>▶資源循環関連工事の実施</p>	<p>《カーボンニュートラルへの貢献》</p> <p>▶自社のカーボンニュートラルの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木質バイオマス発電の総発電容量は8,740kW【多気バイオパワー（TB1：6,750kW）、多気第二バイオパワー（TB2：1,990kW）】</li> </ul> <p>→2023年度売電電力量合計は、3,522kWh（前年度 3,996kWh）となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電の総発電容量は4,045kW【弥富、ソレイユ明野、常滑高校、浜岡寮、渥美、渥美第二、渥美第三、渥美第四、横須賀寮、尾鷲第一、海山】</li> </ul> <p>→2023年度売電電力量合計は、583kWh（前年度 578kWh）となった。</p> <p>▶再エネ開発実現に向けた目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度再エネ電源開発建設工事の施工にあたっては、(株)シーエナジー・中電ミライズ㈱への営業展開により、年度計画値を達成した（太陽光1.7kW・木質バイオ3カ所・アンモニア混焼1カ所）。</li> <li>→2023年度実績：127kW（進捗率22%）</li> <li>・木質バイオマス発電のO&amp;M受託：四日市、米子、蒲郡、田原（拠点化のみ。運開予定2024.11） 計 22.8kW</li> <li>・蓄電池事業への参入を目指して受注に向け取り組んだ。</li> <li>・六ヶ所再処理施設の工事実施（固定式消火設備設置、自動火災報知機更新）、常駐化に向けた営業活動を展開</li> <li>・出資・投資に向け検討中（境港昭和町バイオマス発電合同会社、バイオマスエネルギー田原白浜合同会社）</li> </ul>	<p>《カーボンニュートラルへの貢献》</p> <p>▶自社のカーボンニュートラルの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自社木質バイオマス発電は、多気バイオパワーおよび多気第二バイオパワーの運営を継続。</li> <li>・各太陽光発電事業（11基）は、これまでの取組みを継続</li> </ul> <p>▶再エネ開発実現に向けた目標&lt;2023年中期経営目標&gt;</p> <p>新たに着手する再エネ電源開発工事等により5年間で590kW以上の貢献を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設：478.3kW（太陽光1.6kW、木質バイオ39.1kW、蓄電池0.6kW、水素・アンモニア437kW）</li> <li>・メンテナンス：84.3kW</li> <li>・木質バイオマス発電のO&amp;M受託：27.5kW</li> <li>（注）2024年度当初時点の将来計画：33.1kW</li> <li>・出資・投資：1kW</li> </ul> <p>▶インバータ活用技術による省エネへの貢献</p> <p>▶燃料転換・コージェネ工事の実施</p> <p>▶資源循環関連工事の実施</p>
		地域社会貢献	<p>各団体の活動主旨等を確認し、優先順位をつけて社会貢献活動を継続実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献活動の継続実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体への寄付（中部化学技術センター、日本口唇口蓋裂協会、緑の募金、日本ワシタカ研究センターほか）ならびに「令和6年能登半島地震災害義援金」（日本赤十字社）へ寄付を行った。</li> <li>・マイル리지ポイント付与による寄付については、CSR推進会議（6月14日）において「日本赤十字社〔病院事業運営資金〕とし、96,900円を贈呈した。（2023.7）</li> <li>・本店および各事業所において清掃活動・交通立哨等の社会貢献活動を実施した。</li> <li>・本店ビル周辺の清掃や花壇の整備などを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体の活動主旨等を確認し、優先順位をつけて社会貢献活動を継続実施する。</li> <li>・地域貢献活動の継続実施</li> </ul>
		個人を尊重	<p>個人を尊重し、いきいきと働ける職場をつくる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス環境の変化に対応できるよう、個人の意識改革やスキル向上教育の実施（不安の解消）</li> <li>・個人のキャリアを尊重し、自ら希望し参加できる研修の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部下の成長やエンゲージメント向上を目的として、上司の部下育成・指導力強化のためのコミュニケーションスキル向上研修を実施した（L級以上324名受講）。</li> <li>・自律的なキャリア形成のための「自主参加型研修」を拡大して実施した。（管理職の意識変革、ストレス対応力強化、レジリエンス強化、一般公開講座など）</li> <li>・実務経験取得制度の活用拡大と促進に向けた運用要領を見直した。</li> <li>・求められる人材ロールモデルとその育成早期化に向けてワーキングを実施し、発電事業の要員体制強化と多様化するお客さまへの営業力強化を目的としたキャリアプランを見直した。</li> </ul>
		<p>いきいきとした職場作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換会の継続等による風通しの良い職場風土の醸成</li> <li>・「魅力ある会社づくり」の取り組みにより、個人の意見や要望を反映した施策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・的確な育成と人事評価により、管理的役割を担う職能資格等級に格付けされる女性社員は計20名（2023年度昇格者2名）となった。</li> <li>・公正な採用活動および選考により、外国人2名を採用（2024年4月1日入社：新入社員1名・中途採用1名）した。</li> <li>・障がい者雇用率は2名の退職により、2024年3月31日現在で雇用率は2.29%となり、法定雇用率2.3%を下回ることとなった。次年度以降は法定雇用率が引き上げられる（2.5%）ため、人材紹介会社も活用して採用を行い、雇用率確保を目指す。</li> <li>・人財活用システムによる目標管理・人事評価や1on1ミーティング、自己申告の運用を実施し、データ蓄積・活用促進のための説明会を各所訪問のうえ実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティ&amp;インクルージョンを推進。</li> <li>・人財データを分析・活用した要員調整を実施し、最適配置の高度化や人財の育成に繋げる。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生活動計画に基づき、健康経営を目指した取組みを継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「からだ」「こころ」「職場」の3つの健康づくりの取り組みを進め、国から健康経営優良法人「ホワイト500」の継続認定（5期連続）を受けた。</li> <li>・生活習慣病予防および重症化予防に向けた生活習慣改善の動機づけ促進、メンタルヘルスの改善、過重労働による健康障害防止のフォロー等により、従業員の健康管理に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生活動計画に基づき、健康経営を目指した取組みを継続する。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度社長塾は、変革意識の醸成および次世代リーダーの育成の場として、将来の中部プラントサービスについて、自らが主体的となり、様々な意見を提言できる人財を輩出することを目的に実施した。塾生からは「この社長塾を経験して自分のモチベーションが上がった」「自分の部署に持ち帰って、共有し、経営ビジョン2035に取り組んでいきたい」との意見が多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度は「中期的な対応」として、①「1on1ミーティング」を導入し、上司と部下のコミュニケーションを向上させることで、自己成長ややりがい、達成感を感じながらいきいきと活躍できる職場づくりを推進した。</li> <li>また、②管理職を対象にした「エンゲージメント向上研修会」を開催し、基礎知識や意識向上、具体的な取り組みなどを修得することで、いきいきと働ける職場づくりを推進した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変革意識の醸成および次世代リーダーの育成の場として、社長塾を開催し、風通しの良い職場風土の醸成を図る。</li> <li>・「魅力ある会社づくり」の取り組みにより、個人の意見や要望を反映した施策の検討</li> </ul>

\* ISO26000（社会的責任に関する手引き）による中核主題（組織統治、人権、労働慣行、環境、公正な事業慣行、消費者課題、コミュニティへの参画及びコミュニティの発展）を参考に項目を決定した。